

ジェームズ・マクニール・ホイッスラー
(1834–1903)は、アメリカのボストン近郊に生まれ、パリの印象派の画家たちと交流をもちつつロンドンを拠点に活躍した、19世紀後半を代表する画家です。当時の画壇の主流であった歴史や教訓を「物語る絵画」を否定し、絵画における純粋な視覚的喜びを追求する唯美主義を主導したホイッスラーの考えや作品は、広く同時代の芸術家に影響を与えました。

また、彼は日本の美術・工芸品から大きなインスピレーションを得て、色や形の調和を主眼とした独自の画風を確立し、ジャポニズムの先駆者としても世界的にその名を知られています。本展は、アメリカ・イギリス・フランスから、ホイッスラーの油彩画・水彩画そして版画の代表作約130点が集結する、国内では27年ぶりとなる大回顧展です。浮世絵などの参考作品・資料をも含む本展で、19世紀後半の欧米画壇を席卷した巨匠の輝きを、ぜひご覧ください。

James McNeill Whistler Retrospective
2014年9月13日(土) — 11月16日(日)

休館日 | 月曜日(月曜日が祝日・振替休日の場合はその翌日)
*ただし、9月22日(月)、10月14日(火)、11月4日(火)は開館

開館時間 | 午前9時30分～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
*9月20日(土)・21日(日)は午後8時まで(入館は午後7時30分まで)

《灰色と黒のアレンジメント No.2: トーマス・カーライルの肖像》
|1872–73年 | グラスゴー美術館 |
© CSG CIC Glasgow Museums Collection

ホイッスラー展

08月08日 - 09日

映画と早川雪洲ジャポニズム特集

2014年08月08日(金)、09日(土)

ジャポニズムの巨匠ホイッスラーの全貌を回顧する「ホイッスラー展」(9月13日-11月16日)にあわせ、初期アメリカ映画におけるジャポニズムとオリエンタリズムの代表作でもあるハリウッド・スター早川雪洲(1886–1973)の主演作を上映。

衣裳や美術、人物やプロットにみられる日本像に加え、アメリカ映画の大立者トーマス・インスの下で雪洲とともに活躍した青木鶴子や、後に日本映画の欧米化を推進するトーマス・クリハラ、ヘンリー・コタニの演技も堪能できる。

08日(金) 19:00–19:56

火の海(神々の怒り) THE WRATH OF THE GODS

56分 | 16fps | 35mm | 無声 | 染色
1914(アメリカ) 監 | レジナルド・パーカー
脚 | トーマス・H・インス、ウィリアム・H・クリフォード、C・ガードナー・ザリヴァン 出 | セツシュウ・ハヤカワ(原川實洲)、ツル・アオキ(青木鶴子)、フランク・ボゼーギ、トーマス・クリハラ(原原第三郎)、ヘンリー・コタニ(山谷ヘンリー)、グラディス・ブロックウェル、ハーシェル・メイオール

1914年の桜島大噴火に想を得て、それを神秘の国・日本の“神々の怒り”説話と結び付けたスペクタクル映画。「迷信と因習に生きる不幸な日本女性(青木鶴子)が、文明国アメリカのキリスト教徒に解放される」という図式ではあるが、1910年代に日本を描こうとした着眼点はインスのもの。

08日(金) 18:00–18:45

解説「早川雪洲が演じた日本人像と日系人社会」

『火の海』の上映前に解説を行います。
板倉史明氏(神戸大学准教授)



火の海

09日(土) 14:00–14:51

蛟龍を描く人 THE DRAGON PAINTER (LE PEINTRE DE DRAGONS)

51分 | 18fps | 35mm | 無声 | 染色
フランス語インタータイトル
1919(アメリカ) 監 | ウィリアム・ワーシントン
脚 | メアリー・マクニール・フェノロサ 脚 | リチャード・シェイカー 脚 | フランク・D・ウィリアムズ 美 | ミルトン・メナスコ 出 | セツシュウ・ハヤカワ(原川實洲)、トニー・フジタ(藤田東洋)、エドワード・ビール・シニア、ツル・アオキ(青木鶴子)

ヨセミテ峡谷を箱根に見立てて早川雪洲が製作・主演した作品。蛟龍を描く人(ドラゴン・ペインター)と呼ばれる画家は理想の女性に出会って結婚する。幸せの中で靈感を失った夫を救うため妻は遺書を残して自決する…。原作者は日本美術研究家フェノロサの夫人メアリー・マクニール。

09日(土) 14:00–14:51

蛟龍を描く人

*伴奏付き
出演: 澤登翠(弁士)、湯浅ジョウイチ(ギター)



蛟龍を描く人

09日(土) 15:10–16:13

颱風 THE TYPHOON

63分 | 16fps | 35mm | 無声 | 白黒
1914(アメリカ) 監 | レジナルド・パーカー
原 | メニヘルト(メルヒオール・レンジエール) 脚 | トーマス・H・インス 出 | セツシュウ・ハヤカワ(原川實洲)、グラディス・ブロックウェル、フランク・ボゼーギ、ヘンリー・コタニ(山谷ヘンリー)、レオナ・ハットン、トーマス・クリハラ(原原第三郎)、ツル・アオキ(青木鶴子)、チャールズ・K・フレンチ、ハーシェル・メイオール

パリに住んで故国のために諜報活動をする日本人エリートが、情婦との別れ話もつれて破滅するまでを描いた問題作。同名の舞台を見たトーマス・H・インスによって映画化され、セツシュウ・ハヤカワの出世作となり、青木鶴子とも結婚した記念すべき1本。日本公開は1922年。

09日(土) 15:10–16:13

颱風

*伴奏付き
出演: 湯浅ジョウイチ(ギター)



颱風

10月25日 - 26日

イギリス映画と演劇

2014年10月25日(土)、26日(日)

8月に続き「ホイッスラー展」の関連企画として、イギリス演劇の映画化作品から、英国のダンディズムをキーワードに、その代表格といえるイギリス人俳優レスリー・ハワード、ダーク・ボガード、ローレンス・オリビエの主演作を上映。

『銃殺』の監督ジョセフ・ロージーは、ハリウッドの“赤狩り”で母国のアメリカからイギリスに亡命した作家であり、ホイッスラー同様にヨーロッパを拠点に数々の傑作を放った。

25日(土) 14:00–15:26

ピグマリオン PYGMALION

86分 | 35mm | 白黒
1938(イギリス) 監 | アンソニー・アスクイス
監 | レスリー・ハワード 原 | ジョージ・バーナード・ショー 脚 | W・P・リップスカム、セシル・ルイス、イアン・ダリントン 脚 | ハリー・ストランドリング 美 | ローレンス・アーヴィング 出 | アルテュール・オネゲル 出 | ウェンディ・ヒラー、ウィルフリッド・ロースン、マリー・ロー

言語学者が親友と賭けをして貧しい花売娘に正しい英語と礼儀作法を教えるようになるが…。ジョージ・バーナード・ショーが1913年に発表した同名戯曲の映画化。オードリー・ヘップバーン主演で映画化(1964)されたヒット・ミュージカル「マイフェア・レディ」の原形となった。



ピグマリオン



銃殺 | 写真協力 公益財団法人川喜多記念映画文化財団

25日(土) 15:40–17:06

銃殺 KING AND COUNTRY

86分 | 35mm | 白黒
1964(イギリス) 監 | ジョセフ・ロージー
原 | ジェームズ・ラスデル・ホドソン 脚 | エヴァン・ジョーンズ 脚 | デニス・クープ 美 | ビーター・マリンス 音 | フリー・アドラー 出 | ダーク・ボガード、トム・コートニー、レオ・マツカーン、パリー・フォスター、ジェームズ・ズウィアーズ、ビーター・コプリ、ジェームズ・ハンター、ジョナ・シモア、フリー・テイラー

第一次世界大戦を舞台に、逃亡罪で軍法会議にかけられた二等兵のハンブと、彼をひたりと弁護する将校の物語。英国映画の名優ダーク・ボガードとトム・コートニーが熱演した反戦映画。小説「Return to the Wood」から、ジョン・ウィルソンの戯「Hamp」(1964)が生まれ、本作の誕生となった。



オセロ | 写真協力 公益財団法人川喜多記念映画文化財団

26日(日) 14:00–16:45

オセロ OTHELLO

165分 | 35mm | カラー
1965(イギリス) 監 | ステュアート・パージ
原 | ウィリアム・シェイクスピア 脚 | アンソニー・ハブロック=アラン、ジョン・ブレイベン 脚 | ジェフリー・アンスワース 美 | ウィリアム・ケルナー 音 | リチャード・ハンブトン 出 | ローレンス・オリビエ、マギー・スミス、フランク・フィンレイ、ジョイス・レッドマン、デレク・ジャコビ

シェイクスピアの四大悲劇の一つ。ヴェニス公国に雇われたムーア人の將軍オセロが、部下イアゴの奸計にかかって、妻デズデーモナの貞操を疑い、破滅に至る。オリヴィエが芸術監督を務めたナショナル・シアターが、シェイクスピア生誕四百年記念で上演した『オセロ』をさらに映画化。

NFC所蔵作品選集

MoMAK

2014.08 — 10

NFC所蔵作品選集

FILMS MoMAK

2014.08—10

NFC所蔵作品選集

FILMS MoMAK

2014 ⁰⁸ ₁₀ ^{Aug.} _{Oct.}

Information

上映時間 | 各回14:00-18:00頃 (開場は13:30)

8月8日(金)のみ19:00- (開場は17:45)
上映作品は予告なく変更する場合があります。
上映作品、各回のスケジュールについては京都国立近代美術館HPにてご確認ください。
www.momak.go.jp/films/

料金 | 1プログラム 500円 (当日券のみ)

*本券でコレクション展もご覧いただけます。

会場 | 京都国立近代美術館 1階講堂

先着100席

入場券は会場入口にて販売します。
当日13:30(8月8日のみ17:45)より当日分のすべての作品の整理番号つき入場券を販売、開場します。各回入替制です。2回目は上映開始の10分前に開場します。
会場内での飲食はご遠慮ください。

主催 | 京都国立近代美術館(MoMAK)
東京国立近代美術館フィルムセンター(NFC)



企画協力 | 富田美香(立命館大学映像学部教授)
川村健一郎(立命館大学映像学部准教授)

Exhibition

同時開催中の展覧会

うるしの近代 — 京都、「工芸」前夜から

会期 | 2014年7月19日(土) - 8月24日(日)

ホイスラー展

会期 | 2014年9月13日(土) - 11月16日(日)

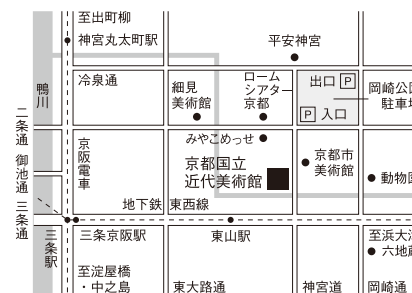


オセロ | 写真協力 公益財団法人川喜多記念映画文化財団

access

京都国立近代美術館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町
TEL 075 761 4111
www.momak.go.jp



- JR・近鉄京都駅前(A1のりば)から市バス5番 岩倉行 [岡崎公園 美術館・平安神宮前]下車すぐ
- JR・近鉄京都駅前(D1のりば)から市バス100番(急行)銀閣寺行 [岡崎公園 美術館・平安神宮前]下車すぐ
- 阪急烏丸駅・河原町駅、京阪三条駅から市バス5番 岩倉行 [岡崎公園 美術館・平安神宮前]下車すぐ
- 阪急烏丸駅・河原町駅、京阪祇園四条駅から市バス46番 平安神宮行 [岡崎公園 美術館・平安神宮前]下車すぐ
- 市バス他系統「東山二条・岡崎公園口」または [岡崎公園] ロームシアター京都・みやこめっせ前]下車徒歩約5分
- 地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約10分

MoMAK F Column

◀ 004 ▶ 早川雪洲の時代

無声映画黄金期のハリウッドに、エキゾチシズムとセックス・アピールで一世を風靡した二人の男優がいる。1920年代のセックス・シンボルと称されたルドルフ・ヴァレンティノと、彼より早くトップスターの座に君臨した「セシュー・ハヤカワ(早川雪洲)」である。

早川雪洲は、『チート』(1915年、セシル・B・デミル)において、アメリカ社交界では寵児の紳士でありながら、日本趣味の自宅では白人女性の肌に乗った東洋人の悪役を演じて、一躍スターダムに駆け上った。特に、彼の端正な顔立ちとクールな演技、デミルならではの豪華な装飾、光と影を照明で際立たせた白黒映像の美、が存分に発揮された自室のシーンは、今見ても凄艶で、魅惑的である。

雪洲がアメリカで活躍した背景には、19世紀末からカリフォルニアへ渡った日系移民をめぐる社会状況と、ジャポニズムが大きな要因としてあった。『チート』を含め、今回上映する三作にもその特徴がよく表れている。

『颱風』と『火の海』の製作会社は、ハリウッドの草創期に広大な撮影所村を作り、プロデューサー・システムや撮影台本を定着させ、アメリカ映画を牽引していったトーマス・H・インスが、東洋趣味の短編映画製作を目的に設立したオリエンタル・プロダクションである。東洋趣味や日系移民の社会が市場として成立した証であり、プロットや人物像のいわゆる「オリエンタリズム」も明解だ。主演女優として人気を博していた青木鶴子は、川上音二郎・貞奴の姪にあたる。貞奴は、1900年のパリ万博での公演を機に、ヨーロッパの社交界で「ヤッコ服」と呼ばれるキモノ風ドレスやグランの香水「ヤッコ」の流行をおこし、同じ時期に各地で上演されていたオペラ『蝶々夫人』とあいまって、それまで美術工芸の分野であったジャポニズムを、女性のファッションに広げる原動力となった女優である。アメリカでは、デパートのカatalogでキモノ風ガウンや室内着が販売されるなど(深井晃子『ジャポニズム インファッションー 海を渡ったキモノ』、見玉実英『アメリカのジャポニズム』)、流行は中流階級まで浸透していた。1910年代半ばは、アメリカの映画業界が映画館を豪華にし、観客層を中流階級以上にあげた時期であり、エキゾチシズムは館の内装にも作品にも反映されている。

『チート』の後、雪洲は自分のプロダクション(Haworth Pictures Corp.)を立ち上げ、日系社

会からも日本からも国辱、国賊と非難されないような作品の制作を心掛けた。1900年前後のアメリカでは、ラフカディオ・ハーンや女性作家を含めて日本を題材にした小説が多数出版されており、狩野派の画家を主人公にしたメアリー・フェノロサの『蚊龍を描く人』はその一本である。

今回の上映作品では、インス式の撮影台本を日本映画に導入した映画監督のトーマス栗原と、松竹キネマの草創期をカメラマンとして支えたヘンリー小谷の俳優時代を確認することができる。彼らが活躍した無声映画の時代に、日本において映画を鑑賞するという行為は、視覚芸術の無声映画と、弁士と伴奏音楽による話芸と音楽とが融合した、ライブ・パフォーマンスを味わうことでもあった。今回の上映でも、澤登翠弁士、湯浅ジョウイチ氏による、一回性の映画体験を堪能されたい。

富田美香(立命館大学映像学部教授)